

# 2009.12.3 U20世界ラグビー選手権日本代表監督/薫田真広氏講演会

不惑で九大OBの新田さんのお誘いで武蔵小山での薫田監督の講演会に参加しました。(予定)



## 薫田監督が言われたこと

- 日本は、後半20分失速すると言われる中、2009年U20大会は、プロに対して学生として戦い負けたが2008年のボールキープ時間15分から20分とアップした。体力消耗は、スクラム・タックル等で押し込まれた状況から押し返すのに体力を消耗する。
- 見ることでコミュニケーションが大切といわれていた。決められただけヤルノではダメ。広い視野が必要。
- 日本人は、スイッチの切り替えが下手だ。外国人は、暑い時は練習しなくても試合に集中できる。日本人は、長く練習するが集中力が付くのか？
- 選手選考基準
  - ① Physical Strength(体力)②Speed③Skill(熟練)④Character(個性)
- 日本スタイルの確立
  - ・個人を磨き、組織力を高める！
  - ・総ての局面は個々の戦いからスタート→人のつながり
  - ・自分もテストマッチの時は、死んでも良いと荷物を整理して試合の臨んだが、カーワングオールブラックスを話す中に歴代選手の思いが次の選手に繋がっているとのこと、ジャパンはそれが無い。→良い話は繋げる必要がある。
  - ・直感が必要である。
  - ・戦略は大胆、戦術は緻密に！
- 東芝府中の話
  - ・個人技を磨き、組織力を高めた。
  - 東芝は派手さはないが、粘り強いチーム造りした。→対戦相手から当たり強かったと言われること目指していた方向。
  - 知・体・心・技の順で大切
  - 東芝の選手は、自分で考えることが出来た。ハーフタイムでは監督が指示しないでも福岡主将を中心に修正を徹底出来た。
  - 大野選手は、日大工学部で東芝の練習に参加した時、厳しい練習ついてくる知と心を持っていたので東芝に採用した。同時に参加した日大のキャプテンは練習についてこれなかった。
  - 大野選手は、試合で9Kg体重が減るほど、よく働く。
- その他
  - ・日本人は一貫性が無い、外国人は、10本100メートル走では10本全力で走る。日本人は、途中で抜く。
  - ・日本人の強みを明確にする必要がある。→俊敏性
  - ・岩淵健輔さん(青学大→神戸製鋼→サラセンス)が日本人の合ったルール作りにIRBで頑張っておられるとのことでした。
  - ・リスクマネジメントを考える必要がある。攻めている時、トライされるケース多い。
  - ・フランスW杯は大成功であった。2011年ニュージーランドW杯は失敗だろうか？

2019年日本でのW杯を成功させよう皆さん頑張りましょう

過去ラグビーワールドカップ実績

-	1987	1991	1995	1999	2003	2007
ホスト国	NZ 豪州	英国	南ア	ウェールズ	豪州	フランス
観客	60万	100万	110万	160万	190万	204万
テレビ視聴者	3億	18億	29億	30億	34億	40億

・薫田監督の夢

- ① W杯で勝つ②W杯でベスト8に入る。
- ・今回のU20 W杯では、選手のやることを明確にしていたので、KO大の選手から好評であった。タックルの出来ないW大Y選手は外した。W大Y選手は、カーワングジャパンに選ばれているが、将来先行の気持ちで選んでいる。